

# 令和7年度第1回河南町地域福祉計画・活動計画策定委員会 中間報告資料

## 基本目標1 みんなで安心して暮らせる住みよい地域づくり

施策の方向性	住民の意見	できたこと、今後取り組むこと、課題
<p>(1) 情報の創造・発信・共有と連携の充実</p>		<p><b>高齢障がい福祉課</b> <u>情報提供について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「福祉の手引き」の配布をし、障がいに関する制度、障がいサービスなどの周知を行った。ホームページについても、町内障がい者施設の一覧の更新などを行っている。今後、申請が必要なイベントがある場合、LOGOフォームなどの申請フォームを活用し、紙媒体だけでなく電子上での申請も一般的にしていく。</li> <li>LINE（ライン）や町ホームページでの情報発信。町ホームページにも、申請書などの様式を掲載する。</li> </ul> <p><u>地域のつながり、連携体制の充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>老人会・自治会に入っていない人などと情報共有に発信に差が出ないように、民生委員やインターネットを利用するなど情報発信を工夫していく。</li> </ul>
<p>(2) 支援が必要な人を支える地域づくり</p>	<p><u>情報提供について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者が使える制度や、サービスがわからない。教えてほしい。</li> <li>そんな行事があるのは知らなかった。なにかを申請するときに申請書を役場まで取りに来ないといけないのか。</li> </ul> <p><u>地域のつながり、連携体制の充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>独居老人が増えており、老人会に入っている人とそうでない人、自治会に入っている人、入っていない人が分かれてきている。</li> <li>サロン対象者の名簿作成が大変。（個人情報の為、町が教えてくれない）（石川）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小さい町であり、住民と行政の距離を今以上に縮め、何でも相談してもらえる体制、関係づくりを目指していく。</li> </ul> <p><b>社会福祉協議会</b> <u>情報提供について</u></p> <p>『生活支援サービス体制整備受託事業・コミュニティソーシャルワーカー設置事業・重層的支援体制整備事業』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出張相談（憩いの場）を実施し、情報提供などの充実に努めていく。</li> <li>地域の居場所や会議、出張相談等を通し情報発信を行い、地域住民や関係団体、関係機関との情報共有、発信の機会の充実に努めていく。</li> <li>「小ネット感謝の集い」等を通し、地域と活動内容の共有、地域住民への見聞を広める。</li> </ul>
<p>(3) 防災・防犯体制の充実</p>		<p><u>地域のつながり、連携体制の充実</u></p> <p>『ボランティア活動推進事業・重層的支援体制整備事業』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害ボランティアセンターの運営において、災害ボランティアの事前登録への呼びかけを行っている。今後も呼びかけは継続し、また災害ボランティアの登録者に対しても、防災に関する情報発信や研修の機会を設けていく。</li> <li>避難行動要支援者名簿の在り方を引き続き考えていき、加えて名簿の更新や平時からの取り組みについても検討を進めていく。</li> <li>子どもへの福祉の理解を深めるために、身体障がい者福祉協会やボランティア連絡会の協力のもと、小学校へ福祉教育を実施している。かなん桜小学校での実施が止まっているため、再開に努める。</li> </ul>

施策の方向性	住民の意見	できたこと、今後取り組むこと、課題
(1) 情報の創造・発信・共有と連携の充実		<p><b>社会福祉協議会</b>  <u>地域のつながり、連携体制の充実</u>  『生活支援サービス体制整備受託事業・コミュニティソーシャルワーカー設置事業・重層的支援体制整備事業』  ・地域食堂や子ども食堂、食材支援等を通し、顔の見える関係づくりを通して気になる人などの見守りの充実に努めていく。また、身近な悩みごと、生活、家庭問題や福祉に関すること等を幅広く包括的に相談を受け、その人一人ひとりに合った福祉サービスの紹介や専門機関、関係機関へつなぎ連携を図りながら支援し、必要に応じて就労支援や参加支援等を行う。  ・協議体は、地域の課題を把握し解決策を話し合う場であるが、課題の一つである居場所をテーマに研究会を立ち上げ、居場所づくりの勉強会や意見交換会を実施した。  その居場所づくりを進めていく中で、善意銀行を活用し支援助成金を創出していく。また、それらの活動を進めていくにあたり、情報共有をより密にし、柔軟なより良い改善方策を行っていく。</p> <p><u>その他の事業について</u>  『特例貸付フォローアップ支援事業』  緊急小口資金・総合支援基金（コロナ特例）の償還免除者、猶予者に対するフォローアップ支援を行っている。</p>
(2) 支援が必要な人を支える地域づくり		
(3) 防災・防犯体制の充実		
策定委員会 第三者評価	<p>1／基本目標1にある「みんなで安心して暮らせる住みよい地域づくり」に向けて、町は「福祉の手引き」等を作成するとともに、ホームページやLINEなどのソーシャルメディアの活用を進めている。一方で地域の声として福祉サービスの制度やサービスが分からないという意見がある。地域住民は年代や生活環境などが多様であるとともに、住民目線に立った際に、福祉活動の参加者が必要とする情報と、福祉サービスを必要としている住民が必要とする情報、啓発を含めて住民全般に広報したい情報などがあり、それぞれの対象者に届く情報発信のあり方の検討を進めることが可能であると思われる。</p> <p>2／町のコメントにある「小さい町であり、住民と行政の距離を今以上に縮め、何でも相談してもらえる体制、関係づくりを目指していく」に関連し、町内においても現時点および今後の予測として地域福祉活動を進めていく上において取り巻く環境や資源の差、課題があることも鑑み、町・社会福祉協議会・地域が連携できる仕組みとして、町・社会福祉協議会側からの専門的アプローチを検討し、関係者間の関係性の向上について具体的な施策を進めていくことが期待される。中間評価時点までにおいて、社会福祉協議会のモデル地区指定が進められており、モデル地区事業実施後のヒアリングにおいて、地区から社会福祉協議会の地域へのサポートについて好評するコメントも複数寄せられていることから、今後も同事業も含めた実効性のある取り組みを求めたい。</p>	

基本目標2 みんなが思いやりの心を持って助け合い・支え合う仕組みづくり

施策の方向性	住民の意見	今後取り組むこと、課題
<p>(1) 包括的な支援体制の構築</p>	<p><u>移動手段の確保</u>                      ・重度障がい者移動支援事業のチケットを毎年申請している。                      ・カナちゃんバスは使いやすい。運転手も親切。(さくら坂4丁目)                      ・参加者のほとんどは送迎しており、手分けして行っている。(石川)</p>	<p><b>高齢障がい福祉課</b>  <u>移動手段の確保</u>                      ・重度障がい者移動支援事業の実施、継続。ご存じの方は、当事業を利用しているが、事業についてご存じない方は利用できていない。今後は対象の方に知ってもらえるよう、周知の方法を模索していく。                      ・金剛バスが閉鎖となり、1市2町1村で金剛ふるさとバスを運営している。住民の方々の足となり、不便を少しでも解消できるよう町として進めていく。                      ・高齢者の日常移動手段、地域福祉活動への参加を促すため、訪問型サービスDを実施している。今後も継続していく。</p>
<p>(2) 福祉活動の移動手段の確保</p>	<p>・世代間交流で、これまでは通学バスで来てもらっていた。通学バスが利用できなくなり、「学校に来てもらえれば」と言われたが、こちらから学校まで行く手段がない。(石川)</p> <p><u>地域の現状</u>                      ・施設の入所者の家族と施設の職員との交流の場ができた。(認知症カフェひだまり・神山地区)                      ・地区と地区のつながりを強めていきたい。(中村地区全体)                      ・住民同士の仲がいい。(石川)                      ・認知症カフェの催しが楽しい。(折り紙、クリスマス会、花見など)(認知症カフェかえで・中)                      ・15年前はデイサービスに行っている人はいなかった。今は変わってきている。(中村地区)。                      ・地域福祉活動のボランティアは自ら進んで応募していただいた方で構成されており、自慢のできる団体である。(寺田)                      ・地区で独居老人が増えてきている。(さくら坂3丁目)                      ・サロン活動への予算がしんどい。(さくら坂4丁目)                      ・コロナ禍前はお茶会などもしていたが、それ以降は活動ができていない。高齢者の方々が外に出るのが億劫という意見もある(持尾)                      ・村でイベントをやるといっても、集会所に集まるまでに交通量の多い国道を歩いてこないといけなく、危険が伴うため開催が難しい。(青崩)</p>	<p><u>地域の現状</u>                      ・認知症カフェについては、令和4年度～6年度までの間に3か所開設。開設の声掛けをするが賛同を得られないところがあったため、今後また声掛けを実施し開設できるよう努める。</p> <p><u>担い手について</u>                      ・通所サービスBについては、令和2年4月より百歳体操などの活動を行う団体に町から補助金を支給している。今後も立ち上げの声掛けを実施し、事業紹介を行っていく。                      ・自治会や老人会も形が変わってきている。行政も世の中の動きに対応して新たな担い手づくりの形を模索していく。</p>
<p>(3) 地域活動の担い手づくり</p>	<p>・施設の入所者の家族と施設の職員との交流の場ができた。(認知症カフェひだまり・神山地区)                      ・地区と地区のつながりを強めていきたい。(中村地区全体)                      ・住民同士の仲がいい。(石川)                      ・認知症カフェの催しが楽しい。(折り紙、クリスマス会、花見など)(認知症カフェかえで・中)                      ・15年前はデイサービスに行っている人はいなかった。今は変わってきている。(中村地区)。                      ・地域福祉活動のボランティアは自ら進んで応募していただいた方で構成されており、自慢のできる団体である。(寺田)                      ・地区で独居老人が増えてきている。(さくら坂3丁目)                      ・サロン活動への予算がしんどい。(さくら坂4丁目)                      ・コロナ禍前はお茶会などもしていたが、それ以降は活動ができていない。高齢者の方々が外に出るのが億劫という意見もある(持尾)                      ・村でイベントをやるといっても、集会所に集まるまでに交通量の多い国道を歩いてこないといけなく、危険が伴うため開催が難しい。(青崩)</p>	<p><u>活動支援</u>                      ・デイサービスの事業所も増えており、支援が必要な方の支援体制の強化を進めていく。                      ・百歳体操については、令和5年度から令和7年度にかけて3か所開設することができた。今後は、地域での自主的な活動がより一層助成されるよう、物品の貸し出しや講師派遣するなどの支援を行う。</p> <p><u>包括的な支援体制の構築</u>                      ・令和6・7年度は重層的支援体制整備事業の準備期間であった。関係機関との連携体制の強化・確認と事業の説明に努めてきた。一部ケースについても支援を進めてきた。令和8年度より重層的支援体制整備事業を本格的に実施していく。</p> <p><b>社会福祉協議会</b>  <u>移動手段の確保</u>                      『ラクチンライフサポート事業・生活支援サービス体制整備受託事業』                      サポーターによる家事援助等の日常生活支援を行っている。                      また、要支援1・2などの方を対象に通院・買い物等の外出支援を行う訪問型サービスDを行っている。令和5年度から富田林市内の病院へ通院できるよう移送範囲が拡大され利用件数が増えた。引き続き運転ボランティアの養成に努める。                      引き続き、運転ボランティアの確保に力を入れる(福祉有償運送講習会の受講)</p>

施策の方向性	住民の意見	今後取り組むこと、課題
<p>(1) 包括的な支援体制の構築</p>	<p><u>担い手について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通所Bについては担い手が少ない。(北加納)</li> <li>・老人会の役員のなり手がなく老人会が潰れてしまった。</li> <li>・自治会の担い手が大幅に減ってきており、自治会がもたない。(さくら坂)</li> <li>・ブルーガードや見守りボランティアの新しく入ってくるひとがいない。</li> <li>・ブルーガードが高齢化しており、やめる人はいるが、入る人がいない。(石川)</li> </ul>	<p><b>社会福祉協議会</b></p> <p><u>地域の現状</u></p> <p>『コミュニティソーシャルワーカー設置事業・認知症地域支援推進員設置事業・日常生活自立支援事業・重層的支援体制整備事業』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合福祉相談窓口をはじめ、はーと・ほっと相談室による出張相談等により幅広い相談に応じるとともに、多様化、複雑化した相談にも対応するため、CSW、認知症地域支援推進員等社協の専門職とはーと・ほっと相談室及び重層的支援体制整備における多機関協働事業の推進員と毎月1回情報共有会議を行い対応策の検討を行っている。</li> <li>・複雑・多様化する福祉課題に対し、町や各関係機関（福祉施設など）との連携を強めていき、地域支援を進めていく。</li> <li>・大阪府内の社会福祉法人が連携・協働して地域貢献事業へ取り組んでいる「大阪しあわせネットワーク」と連携し、地域住民の複雑多様化した福祉課題に対応している。また、「河南町社会福祉施設等連絡会」では、互いの連携を強化、ふくし出前講座や福祉なんでも相談会を実施し、様々な地域課題に協働して、地域福祉の向上を目指している。今後は民間等多様な機関とのネットワーク構築に努める。</li> </ul>
<p>(2) 福祉活動の移動手段の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100歳体操については参加者がずっと同じメンバーで変わらない。</li> <li>・地元は昔から林業が主であったが、低迷しているので地元就職してくれる人もいない(青崩)</li> </ul> <p><u>活動支援</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談ができて良かった。(認知症カフェコトノハ・一須賀地区)</li> <li>・通所Bについては、補助金を活動の備品に活用できるのがいいところ。</li> </ul>	<p>『ボランティア活動推進事業』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアと住民をつなぐ機会として、ボランティア体験プログラムを実施している。</li> </ul> <p>小・中学生の参加が少なくなっていることもあるので、今後は学校への呼びかけの強化をしていく。</p> <p><u>担い手について</u></p> <p>『小地域ネットワーク活動推進事業（地区福祉委員会活動推進事業）』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区福祉委員が地域福祉活動に対する理解を深めるため、「地区福祉委員会研修会」を実施している。</li> </ul>
<p>(3) 地域活動の担い手づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役場も地域との一体感をもってほしい。(中村地区)</li> <li>・地域福祉活動における手引きをつくってもらって、活動そのものがわかるようになりました。(さくら坂4丁目)</li> <li>・職員が入ってくれて、メンバーのやる気につながりました。(さくら坂1丁目)</li> </ul>	<p>また、新任の地区福祉委員を対象に、「地区福祉委員・新任者研修会」を実施している。</p> <p>それぞれの研修会については、アンケート結果より、好評な意見も多くあるが、学んだことを実際の活動に反映するのが難しいこともあり、それに対するフォローを行っていく必要がある。</p>

施策の方向性	住民の意見	今後取り組むこと、課題	
(1) 包括的な支援体制の構築		<p><b>社会福祉協議会</b> <b>活動支援</b></p> <p>『小地域ネットワーク活動推進事業（地区福祉委員会活動推進事業）』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉活動計画の推進として、指定地区、指定地域へ出向き、いきいきサロンの開催などの地区福祉委員会活動の推進を行っている。</li> <li>・高齢化による担い手の減少や福祉委員会の体制の構築などをはじめ、地域の問題が多様化してきている状況の為、他の担当や関係機関などとも連携を深め、対応していく必要がある。</li> </ul> <p>『ボランティア活動推進事業・生活支援サービス体制整備受託事業・重層的支援体制整備事業』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域での居場所づくりなどをテーマに、ボランティア講座を実施している。</li> <li>・講座の内容については、ボランティアをはじめとした団体からのニーズを基に行っている。</li> <li>・引き続き、居場所づくりや活動の停滞などの問題に講座内容が沿えるよう対応していけるよう、努めていく。</li> <li>・地域の居場所等の地域資源の発掘に努め、それら活動に積極的に参加、介入を継続して行う。居場所同士やそれら関係機関等へ周知をすることで、相互のネットワーク作りを支援。</li> </ul>	
(2) 福祉活動の移動手段の確保			
(3) 地域活動の担い手づくり			
策定委員会 第三者評価	<p>1 / 基本目標 2 にある「みんなが思いやりの心を持って助け合い・支え合う仕組みづくり」に向けて、地域・地区別でのこれまでに多様な福祉活動が展開されている。この活動において、地域・地区での活動機会や活動内容の充実により、参加者の増加や住民間の関係性の向上が図られたという地域・地区からのコメントも寄せられている。このことから地域・地区の福祉活動の意義について成果があるものと評価される。</p> <p>2 / これらの福祉活動の展開においては、民生・児童委員、福祉委員、自治会役員をはじめとした地域関係者の協力によって成り立っていることを改めて敬意を表したい。一方でこれらの活動者の後継者についての課題が挙がってきており、今後さらに高齢化率の上昇も見込まれていることから、これまでと同じ体制や福祉活動を当然のように続けることができるかについては不透明であり、実際に中間評価のヒアリングにおいても地域からの声としてあがってきている。このことから、地域福祉活動をこれまでと同様に推進していくことだけでなく、地域・地区の特性も踏まえて「みんなが思いやりの心を持って助け合い・支え合う仕組み」を実現するために何が必要なのか、何ができるのか、どのようにすればできるのかということを検討していくことが必要と考えられる。その検討にあたっては、地域・地区の意向を含めた地域・地区の主体性を意識するとともに、町・社会福祉協議会としても各地域・地区の活動が進むようにハード面およびソフト面での協働と支援の施策・事業を進めることが求められる。</p>		

基本目標3 みんながお互いを理解し、交流できるまちづくり

施策の方向性	住民の意見	今後取り組むこと、今後の課題
<p>(1) 地域住民等が集い・ 交流しやすい まちづくり</p>	<p><u>地域交流の場</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の子供と高齢者の交流の場ができて嬉しい。</li> <li>・一昨年より地域食堂の立ち上げに力を入れているが、なかなかボランティアが集まらない。 (さくら坂)</li> <li>・100円カフェやお好み焼きで交流の場をつくっている。 (馬谷地区)</li> <li>・送迎などの問題を解決していけるように、どこかにみんなが集まれるような拠点づくりをしてみてもどうか。(石川)</li> <li>・村の中に古民家レストランがあり、クリーンキャンペーンの際にお茶やケーキを出してもらっていたが、現在はレストランも閉まってしまい、できていない。(上河内)</li> </ul> <p><u>地域の行事</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中止になっている八朔市の復活を青年団が考えている。子ども会解散の際にイベントを開催したら盛況であった。(石川地区)</li> <li>・さくら坂はだんじりもないので、地域で子ども対象の事業をしたい。(さくら坂3丁目)</li> </ul>	<p><b>高齢障がい福祉課</b></p> <p><u>地域交流の場</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の場については、色々な場面で情報発信するなど、新しい参加者・交流を希望する人に届いていくようにしていきたい。</li> </ul> <p><u>地域の行事</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度から地域食堂の立ち上げに向け、年1回の研修会を開催し、立ち上げにかかる情報共有や今後に向けた課題整理を行っている。今後は地域食堂の立ち上げに向けて進めていく。</li> <li>・令和7年7月には、さくら坂地区で関係団体がそれぞれ連携し、子供と大人の交流の場所である「さくらあそびの場」が開催。今後町では住民が集える地域づくりを推進していく。</li> </ul> <p><b>社会福祉協議会</b></p> <p><u>地域交流の場</u></p> <p>『認知症地域支援推進員設置事業（認知症地域支援推進員の活動）』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内の認知症カフェ、「ティールームかえで」、「カフェひだまり」、「認知症カフェコトノハ」の3ヶ所に対して活動支援を行っている。</li> </ul> <p>『コミュニティソーシャルワーカー設置事業・重層的支援体制整備事業』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・憩いの場（出張相談）を開き、あらゆる人が集まり、情報交換のできる場を創出する。</li> <li>・子どもの居場所や交流の場の整備として、町内の地域食堂などに食材提供などの支援を行っている。引き続き、活動への相談や情報提供を継続し、町内の居場所に対する拡充に努めていく。</li> </ul> <p><u>地域の行事</u></p> <p>『小地域ネットワーク活動推進事業』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい地域の場「てらっこ会」の立ち上げ支援を行った。今後も新たな交流の場を広げていく。</li> <li>・地域の芋煮会等地域の活動の推進に取り組みマニュアルづくりの支援を行った。既存の行事や、地域の新たな行事の推進を今後行う。</li> </ul>

施策の方向性	住民の意見	今後取り組むこと、今後の課題
<p>(1) 地域住民等が集い・ 交流しやすい まちづくり</p>	<p><u>集まりの場への参加</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人には迷惑をかけたくないという人が多く、横のつながりをどう広げればよいのか。(寺田)</li> <li>・400軒の地区もあれば20軒と小さい地区もある。平等にしていくのは難しいが、公平にしなければならない。(中村地区)</li> <li>・この2～3年間で70歳を超える人ばかりになるため、今以上に活動が難しくなってくると思う。(弘川)</li> </ul>	<p><b>社会福祉協議会</b></p> <p><u>集まりの場への参加</u></p> <p>『ボランティア活動推進事業』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアに関心のある方の集いの場としてボランティアサロンを開催している。今後は参加者の年齢層などの幅を広げていくため、情報発信に力を入れるなどの対応をする必要がある。</li> <li>・地域で集える場所を拡大していくためのアイデアを学び、共有できるよう、ボランティア講座などにて、居場所づくりについて考えていくことのできる機会を設けていく。</li> </ul>
<p>策定委員会 第三者評価</p>	<p>1 / 基本目標3にある「みんながお互いを理解し、交流できるまちづくり」に向けて、モデル事業の中間評価のヒアリングにおいて、世代間交流や住民同士の交流の活性化が図られている様子がコメントとして寄せられている。これは地域福祉活動の実施することが最終的な目的ではなく、地域福祉活動を進めた成果として、平時からの住民間の関係づくりや関係性の深化が期待されるものであり、地域での日頃からの要支援者・要配慮者への見守りや、災害時など有事の際にも地域での支援活動を進める上においても重要と考えられる。</p> <p>2 / 一方で、交流できるまちづくりにおいて、福祉活動の活動者や参加者だけでなく、住民全体に広げていく視点とともに、住民以外の組織や団体等も参画できる取り組みも必要である。そうして多様な関係者（セクター）がそれぞれの地区・地域の今後のあり方を描き、持続可能な地区・地域づくりに向けて必要となる具体的な取り組みを実行していくことが求められる。町が進める重層的支援体制整備事業も活用しながら、各地域・地区の活性化を図ることができるように、町や社会福祉協議会としても協働・技術的支援を進めることを期待する。</p>	